

67期生

# 1年生学年だより

豊中市立第五中学校 2018年12月6日(木) No.26



## ボランティア体験学習しました 11月9日(金) 5、6時間目

各コースにわかれて、それぞれの体験をしました。

1年生の<ボランティアの感想>より・・・(抜粋)



### <車いす>

- ・体験する前は、楽しみという気持ちが強かったのですが、車いすに乗ってみると怖いと思ってしまいました。
- ・車いすを押しているとき、まがり道や段差にとっても苦労しました。ゆるやかな坂道でも押す人は、大変だと思いました。
- ・タイヤがとられて、溝にはまりそうになりました。自動販売機の上のボタンが押せなかったり、車いすを近づけるが難しく、せまい道は壁にぶつかりそうになりました。
- ・車いすに乗ると思っていたよりガタガタと振動が伝わって、乗り心地が心配になり、ゆるやかな坂道でも怖いと思った。

### <点字>

- ・いつか人の役に立つようなものが作りたいなあと思った。点訳した本は、ボランティアの方たちが何ヶ月もかかって作っていることにおどろいた。
- ・シャンプーやエレベーターなど、いろいろな所にあって視覚障がいの人達にとって、点字はただ点筆でプツプツしたものではなく、使いやすくわかりやすく知ることができる大切なものとわかりました。

### <インスタントシニア>

- ・耳栓をするといつも聞こえる声が聞き取りにくくなり、白内障対応ゴーグルをつけると視野がせまくなった。
- ・体が重いだけじゃなく、色がまともに見えなくていつもは簡単なことが一気に難しくなった。
- ・器具をつけて歩くのに、ステッキのありがたさがわかった。
- ・自動販売機で飲み物を買うとき、目がぼやけて見えないからお茶とメロンソーダを間違えた。

### <アイマスク>

- ・白杖を持っている人の誘導のしかたなどの学習をしました。
- ・階段やエスカレーターでの上り下りは、難しい。色や形がわからないと言うのは、本当に大変だと思った。目が見えないのは、不自由だし、怖かったです。
- ・段差のあるところも平らなところも、真っ暗な中で1歩をだすのがこんなに怖いことで、いつもこんな思いだったということがわかりました。

### <手話>

- ・地震など何かが起こっていても、音だけでは聞こえないなど不安なことが多いと思った。
- ・手話は、見えれば遠くの人とも会話ができます。
- ・緊急の放送で音しか流れないとき本当に困るというのに初めて気づいた。
- ・聴覚障がい者にとって、手話は大切なものなんだなあと改めて思った。
- ・最近のスマートフォンやインターネットの普及で昔より生活しやすくなったことがわかった。
- ・たとえ耳が聞こえなくても、映画を見たり、スポーツをしたりすることができるので、自分とは全く関係ない人と差別をしてはいけないと思いました。
- ・手話は、意外と身近なことだと思いました。なぜなら、60才過ぎてから耳が聞こえなくなることもあると知りました。
- ・手話はやってみると難しかったけど、ピリブはできるようになった。先生がやさしく教えてくれたので、他の人にも教えてあげたいと思います。

### <リハビリ大阪>

- ・障がい者やいじめを受けている人への理解が足りないと思います。自分には関係ない、自分は大丈夫だと思い込んでいる人が多くて意識が低いと思います。
- ・人種差別が人と人との間に壁をつくってしまっていると思う。
- ・いじめなどが減らなくて命をおとしてしまう人がいる。
- ・差別がなく、皆で協力し助け合って生きることが大切だと思いました。

- ・ボランティア学習で、今回ふだん見ることのないところを見たり知ったりするきっかけになったと思います。
- ・『かわいそうだと思わないで』というのが一番記憶に残った。困っているときに、手助けを簡単にしてくれるような未来にしたい。

体験したからこそ、実感できる大変さや苦労を67期生は、学習しました。ボランティア体験学習で学んだことを、覚えていてください。67期生のその優しさとともに身近な人たちにもいつでも寄り添えるように・・・

☆ボランティア学習については、12月4日(火)の人権フェスタ「ひまわり」で発表しました。